五中だより

府中市立府中第五中学校
校長　酒井　　泰
平成３１年１月３１日　No.８

言葉の影響を考える

年が改まり、平成３１年となり、学年の締めくくりの３学期となりました。すでに、１か月ほどがたちましたが、おかげさまで生徒たちは落ち着いて学校生活を送っています。

私は、今学期の始業式と定例の朝礼で、「言葉」に焦点をあてて次のような話をいたしました。

「１年の計は元旦にありとよく言われます。特に初夢と言われる、１年の最初に見た夢に自分の今年頑張ろうとしていることが反映されることも多いようです。

この初夢は、１日１日から２日にかけてみる夢を指していると言われ、初夢に見ると縁起の良い夢として、昔から『一富士、二鷹、三茄子』と言われています。皆さんは、どのような初夢を見たのでしょうか。夢は普通、起きた瞬間に忘れてしまうことが多く、よほど印象が強いもの以外は記憶に残らないので、どんな夢を見たか忘れてしまった人も多いのではないでしょうか。そんな中、私ははっきりと今年の初夢は覚えています。なぜならそれはあまりにもひどいもので、印象に残ったからだと思います。それは、仕事の会議で使う資料に大きなミスがあり、多くの関係者に謝り続けるというものでした。夢の中に出てきた会議は、昨日実際にあった会議で、現実は、何ごともなく無事にその会議は終了し、もちろんミスはなく、謝ることもなく済みました。ただし、私は、この夢は、何かの知らせではないか。当日使用する資料に本当に間違いがあるのではないかと思い、１月４日に学校に来て、使用する全ての資料、一枚一枚すべてのページ、合計で８００ページぐらいありましたが、丁寧に、隅々まで自分自身で確認しました。そこで、ミスは発見されなかったため、安心して会議に臨むことができ、正夢にならずに済みました。

私は、ここで改めて点検することの大切さを学びました。人はミスをするもの。もちろんミスをしたくてやっているわけではありませんが、思い込みや勘違いなどでミスをすることがあります。他の人にチェックをしてもらうことで、ミスを無くすことができます。

皆さんに心がけてほしいことがもう一つあります。皆さんは、小学生のころ『フワフワ言葉』とか『チクチク言葉』などという言葉を聞いたことがあるのではないでしょうか。優しい相手のことを思いやる言葉、聞いていて心が温かくなる言葉を『フワフワ言葉』、相手を傷つけるような、言ってはいけない言葉を『チクチク言葉』というようです。

言葉は、人を温かく包み込む優しいものから、言い方や語気を変えるだけで人の心をえぐる醜いものまで変化します。自分の言葉が、相手にどのように受け取られるのかということまで考えて発するようにしてほしいと思います。疲れている人に「なんてさえない表情をしているんだ」と問うより、「何かあったんじゃない。私でよければ話を聞くよ」と声を掛けた方が、相手の気持ちは和むのではないでしょうか。日ごろ、学校で皆さんの言動を見ていると、時折、相手が傷つく表現を耳にすることがあります。毎回、お話していますが、挨拶はよくできるようになってきていますが、時々、厳しい言葉を言われた人は大丈夫かなと思う時があります。思いやりの心、真心に満ちた言葉で、五中が満たされることを期待しています。（１月８日：始業式）

「今日は、言葉についてお話したいと思います。『時は過ぎ去るけれども、ひとたび発せられた言葉は、永久にあとに残る』と言ったのは、『戦争と平和』で有名なロシアの作家、トルストイの言葉です。どんなに長い時が流れても、人の言葉は色あせることなく心に残ります。あなたの言葉が、その人の人生に寄り添うこともあるのです。言葉を介して、あなたは人の

心に生き続けるのです。私は、中学生のころ担任の先生に「何でもよいので、自分の興味をもったことに一生懸命取り組みなさい。何も１つに絞る必要はない。ただし、取り組むと決めたら最後までやり抜きなさい」とか、「学校や学級の仕事で、困難と思われ誰も取り組みそうもない状況になったら、他の人と同じように逃げるのではなく、覚悟を決めて自分がやりますという気概をもちなさい」と言われたことを今でも覚えています。何かにつけ、その言葉を思い出し、弱気になる自分の気持ちを奮い立たせてきましたし、今でも時折、思い出します。

このように言葉は、人の人生に大きな良い影響を与えるだけならよいのですが、下手をすると人の心を深くえぐり、傷つけてしまうこともあります。特に、ネットや携帯、スマートフォン等を活用したＳＮＳ等では、短い文字ですべてを言い表すことができず、誤解を与えることが多いようです。特に、なにか謝らなければならないことが起こった時に、気まずいから、カッコ悪いからといって、メールで済ますことは、避けたほうがよいでしょう。

現代社会は、人々が忙しく、時間の短縮の意味もあり、メールが盛んに利用される時代となっていますが、なんでもメールで済まそうとするのではなく、直接会って話すことを選択すると誤解なく自分の意思が伝わりますし、互いの理解も深まると思います。

メールでもよいし、会って話すこともできるという内容ならば、なるべくメールを使わず、直接会って話すことを心がけてみてはどうでしょうか。（１月２８日：朝礼）

ケヤキ並木の美化・保全の看板について

１月１６日（水）に府中駅近くのフォーリス前広場で、「ケヤキ並木の美化・保全」を推進するために府中市立中学校の代表生徒が作成した原画をもとに作成した看板の除幕式が府中市長及び教育長のご出席のもと行われました。この看板作成の取り組みは、全国的にも貴重な文化財であり、町のシンボルとして大切にしなければならないケヤキ並木の環境の悪化を防ぐという趣旨で実施され、本校では美術部１年生が学校を代表として原画を作成しました。他の１０校の作品とともにケヤキ並木通り沿いに設置されています。本校の作品は、府中駅前郵便局前の植え込みに掲示されています。お近くを通られた際には、ぜひ見ていただきたいと思います。

インフルエンザ予防の徹底について

府中市内の学校では、学級閉鎖や学年閉鎖をしなければならないほど、インフルエンザに罹患する生徒が増えている学校もあります。本校では、昨年の同時期と比べて、罹患する生徒が少ない状況となっています。今後とも「うがいや手洗いの励行」、「十分な睡眠」、「栄養補給」によって、罹患防止に努めていただきたいと思います。

研究発表会について

本校は平成２９年度から２年間にわたって府中市教育委員会研究協力校として「特別の教科　道徳」についての研究に取り組んできました。その成果の一端を２月４日（月）の午後、全学級の道徳の授業公開及びアリーナでの研究発表の形で公開いたします。保護者の皆様もご多用とは存じますがぜひご来校いただき、授業等を参観していただければ幸いです。